

# 佐倉市V連協だより

【発行】  
佐倉市ボランティア連絡協議会  
【連絡先】  
佐倉市ボランティアセンター内  
TEL:043-484-6198  
<http://www.sakuravren.com/>  
E-mail [info@sakuravren.com](mailto:info@sakuravren.com)

V連とともに ～退任にあたって～

会長 寺田純子

2002年、佐倉市社会福祉協議会主催の「ふくしまつり」に参加したことがきっかけで、V連の役員になりました。社会福祉協議会のこととも良く分からず何も知らない状態で引き受けてしまい、今考えると向こう見ずだったと思います。たくさんの出会いがあり多くのことを教えていただきました。私にとってなにもにも変えがたい宝物のような時間でした。

会長としてその職責を果たせたのかは疑問ですが、支えてくださった役員と会員の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。

本当にありがとうございました。



## 第1回運営委員会（総会）のお知らせ

日時：平成29年4月23日（日）

9：45～12：00（受付9：30）

場所：ミレニアムセンター佐倉第3・第4会議室

内容：①2016年活動報告及び決算・監査報告

②2017年活動計画（案）及び予算（案）

③役員改選

④学習会「子ども食堂ができるまでとこれから」

～今求められているボランティア活動～

講師：NPO法人ほっとすぺーす・つき

こども食堂担当者

※昨今、生活困窮や生活形態の変化により子どもの貧困や個食等が社会問題になっています。佐倉市で初めて「子ども食堂」について取り組まれた『NPO法人ほっとすぺーす・つき』の方よりどのような経緯で取り組まれたのか、課題となっていることなどをお話いただきます。

## NPO法人ほっとすぺーす・つき ご紹介

平成26年に発足した社会福祉士を中心とした団体で、主に支援を必要としている人への居場所づくりや地域力の向上、子どもの学習支援などの活動に取り組んでいます。

理事長：田代和美（社会福祉士・介護福祉士）

★子ども支援

学習支援・こども食堂・ホームスタート・メンタルフレンド

★ひきこもり支援

ひきこもりステーション・ひきこもりサポーター訪問事業

★勉強会

認知行動療法勉強会・こどもたちを幸せにするための連続講座

★イベント

ケンコー麻雀・囲碁メイト・よふかしナイト・ナイトウォーク・ほっとお茶会など

〒285-0864 佐倉市稲荷台1-17-1 2F

※京成臼井駅北口より徒歩約3分

TEL043-235-8008 FAX043-235-8008

営業時間 月曜日～金曜日 15時～20時

E-mail [info@hottospace.com](mailto:info@hottospace.com)

HP <http://hottospace.com>

## 使用済み切手収集の会 報告

毎月第3月曜日10時～11時30分、社会福祉センター地下研修室にて会員約15名が集まり、使用済み切手を整理しています。平成28年度は、12kgの使用済み切手が4800円になりました。

売上金は、一定額集まりましたらボランティア活動等に活用します。ご協力ありがとうございました。

### ◆市内収集箱（写真参照）設置場所

志津・臼井・ユウカリが丘郵便局、西部・南部地域福祉センター佐倉市社会福祉協議会、佐倉市商工会議所、志津コミュニティセンター他



V連設立時(1979年7月)からの会員であるこぶしリーダースクラブが解散に伴い今年度限りで退会されます。長きにわたり

ご尽力いただきました。「第35回ボランティアのつどい」では実行委員としてご協力を頂きましたこと、本当にありがとうございました。



## 第1部：活動報告



- 平成 28 年度9月～12月活動報告
- ボランティア・市民活動フェスタ 2016in 佐倉の報告
- 「第35回ボランティアのつどい」お知らせ
- はらっぱ 43 号について



## 第2部：研修会 熊本災害支援 現地からの報告

### ◆ボランティア活動 お話：杉山 美枝子さん(佐倉市社会福祉協議会 まちづくり推進班)

日本介護支援専門員協議会からの依頼で、自宅にいる高齢者の実態把握調査の手伝いとして益城町に6月26日(日)～30日(木)職場に特別休暇を4日間もらいボランティアとして入る。

避難所生活者、県内6,600人(益城町2,000人)。屋根瓦が落ちたり、押しつぶされた家が多く、特に寺迫交差点付近の被害が大きかった。危険な状況の中でも生活し続けなければならない大変さを知る。

益城町総合体育館で総合相談窓口(介護相談、色々な手続き)を担当。YMCA、JRAT(リハビリの団体)、DMAT(ドクター、看護の団体)、社会福祉士会、介護福祉士会、日本介護支援専門員協議会、行政、ボランティア(一般)が活動。各機関のTPOを合せていくのが大変。

段ボールの柱を使い2畳分の空間をカーテンで仕切り生活していた。コミュニケーションがとりづらい、プライバシーは守れても壁を作っていると感じた。地震から2か月半が過ぎ、被災者の方は疲れがたまっていた時期だった。ちょっとしたことでクレームが多かったが、認知症の方が歩き回っていても、みんなで面倒を見ていた。

午後は益城町の包括支援センター(ひろやす荘)の包括職員として活動。高齢者にとって、変わらない生活が大切に思えた。避難所の生活はストレスにつながる。準備しておくべきこととして、機能的な活動、情報の集約、近隣や知人とのつながりが防災の観点からも大切だと感じた。



お話：細谷 聡美さん(佐倉市ボランティアセンター)

### ◆益城町災害ボランティアセンター運営支援

社会福祉協議会のネットワークにより、被災した市町村の災害ボランティアセンターの運営を支援。全国から駆け付けたボランティアの人達を活動につなげる運営側のスタッフとして参加。千葉県からは5名(千葉・流山・富津・匝瑳・佐倉)のチームで7月13日(水)～17日(日)の5日間派遣。関東ブロック同士で業務の引継ぎを行っている。

### ニーズ受付 被災地の方からボランティアにして欲しいことを受ける仕事

落ちてしまった瓦を集積所に運ぶ依頼が一番多く、時期的に仮設住宅への引っ越しの依頼もあった。方言が難しいこと、土地勘がなく地名が浮かばなかったことが大変だった。

遠慮がちになる方が多いので、ニーズをどこまで汲みあげていけるかが私たちの仕事と思った。

——ボランティアの皆さんに(もし災害にあったら)——

まずは自分の身と家族の安全が第1。次に近所の安全。無理をせず、抱え込まずに「助けてほしい」と声をあげてください。ニーズがないと全国からボランティアが集まって来ても仕事がなく帰るということが被災地ではあります。普段、ボランティアをしている皆さんも助けてほしい時は、遠慮せずに声をあげて欲しいです。

身のまわりが落ち着いたら、瓦礫の撤去だけがボランティアでなく、日頃活動していること、避難所での傾聴、手の回らない環境整備、手話・要約筆記を通して情報発信、子どもたちに出し物をして気持ちをやわらいでもらう、自分の家の周りの情報(こういう方がいるよ)を提供するなど災害時でも貴重な活動です。ぜひご協力をお願い致します。

### ティータイム

2グループに分かれてジャンケン大会、お菓子とお茶をいただきながら歓談

